

4月

2026

VOL.536

ひろがれじんけんネットワーク

三木市人権啓発紙

隣保館だより

ホームページURL
<http://www.city.miki.jp/ite/sou-goainpakan/>



4月2～8日は発達障害啓発週間です



(表紙写真) 三同教「じんけんフォト&メッセージコンテスト」2025年度 入選作品
一瞬の瞬間だって見逃さない！君たちのすべてが愛おしいんだから！（新米双子ママ）

◆ . . . contents . . . ◆

◆ 次ページ 人権の小窓(287)

全国中学生人権作文コンテスト 内閣総理大臣賞
福島県泉崎村立泉崎中学校 3年 大野 結夢
「理解からはじまること」

◆ 裏ページ

- ・4月隣保館カレンダー
- ・総合隣保館主催講座生・自主活動サークル教室生募集
- ・人権啓発DVDをご活用ください



いてありました。でも、実際に手を差し伸べるのは、とても勇気がいることだと思えます。実は、障害者の私自身も、周りに助けてほしいと言葉に出すのは勇気がいられます。相手の迷惑にならないか、負担にならないか考えてしまうからです。だけど、障害があるからって特別なことではないと思うんです。まずは、自分や友達に困っていることではないか、手助けできることではないか、そんなことを毎日の生活の中で自然に考えられるようになればいいなと思えます。そうすればハンディキャップを持った人に対しても、相手の立場や気持ちになって寄り添って「何かお手伝いできることはありませんか。」と声をかけられるようになるかもしれません。」

私にとって、聴覚障害者の母がいることは当たり前の日常だ。しかし、障害について何も知識がない人に「私は耳が聞こえないのですが」と言っても、直ぐに対応するのは難しいだろう。母が周りに「助けてほしい」と言い出せないのは、相手の戸惑いや痛みを感じることもあるのも理由ではないか。コロナ禍で、マスク生活が長く続いていたため、口話を使う母にはかなり不便な生活だった。だが、

最近、母の耳が聞こえないことを伝えると、マスクを取って口の動きを見せてくれる人、また、すぐに紙とペンを用意して、筆談をしてくれる人がとても増えたのだ。母に「どうしてだろう。」と聞いてみると「もしかしたら、ドラマの影響かもしれないね。」と言っていた。そういえば少し前、聴覚障害者をテーマにしたドラマがヒットしていた。耳が聞こえない人に対して、どう対応すればよいか理解され、実際に行動に移せる人が多くいるのだ。そう考えるとハンディキャップを持った人への知識や理解がしっかりあれば、世の中はもっと過ごしやすくなるかもしれない。学校の授業で、福祉体験などあるが、たくさんある中のほんの一部の障害に触れているだけで、本当に理解するには、まだまだそこに割く時間が足りないと思う。

私が、母の障害を特別なことではないと思うように、さまざまな障害の理解が進むことで、障害者という概念を持たずに、その人自身を見られる世の中になっていってほしい。

「健常者が障害者を助ける」という構図ではなく「人が人を助ける」という考えが大切なのではないだろうか。





人権の小窓 (287)

第四十四回 全国中学生人権作文コンテスト（主催 法務省・全国人権擁護委員連合会）
内閣総理大臣賞

「理解からはじまること」

福島県泉崎村立泉崎中学校 三年 大野 結夢

私の母は耳が聞こえない。私が生まれた時には、すでに聴力を失っていたので、母の耳が聞こえないことは、私にとって特別なことではなかった。

母は、徐々に聴力がなくなっていく原因不明の難聴で、二十代の前半には完全に聴力を失っていた。大人になってからの失聴で、周りには手話を使える人もなく、口の動きを見て言葉を読み取る「口話」という方法を身につけたそう。

母は、いつも明るく元気で、耳が聞こえないことを気にしていつもそぶりは全く見せない。学校から帰って、その日一日の出来事を母に話すのが日課であり、私の楽しみだ。聞こえなくても、私の口の動きを見て、熱心に話を聞いてくれる。どんな悩みや辛いことがあっても、母は話すと、すっと心が軽くなるのだ。私にとって、母は一番の心の支えだ。

私が小学六年生のとき、五年生の担任の先生から福祉の学習で、私の母に講話をお願いしたいと話を聞いた。しかし、母はすぐに承諾をしなかった。「お母さんが耳が聞こえないことをみんなに知られることで、結夢が学校で嫌な思いをしなれないかな」と不安に思ったそう。私は「大好きな母がみんなの前でお話するなんてうれしい！」という気持ちだったので、

「五年生の子たちはすぐく優しくして、いい子ばかりだから大丈夫だよ！」と迷う母の背中を押した。

依頼を承諾した母は、今までの経験などを文章にまとめていた。できあがった原稿を見て、私は大きな衝撃を受けた。母が「いつも明るく元気を母」になるまで、どれだけ悩み、葛藤してきたか書いてあったからだ。難聴の原因が分からなかったので、たくさん病院をまわり、どうにか治療法を見つげようとしたこと、どこかの病院へ行っても治療法はないと言われ絶望したこと、耳が聞こえないことを告げると、途端に馬鹿にしたような態度を取る人もいたこと、そんな中でも母の障害を理解し、助けてくれる人もたくさんいたことなど。「明るく元気な母」になるまで、多くの紆余曲折や葛藤がつづられていた。そして、講話の最後にはこんなことが書いてあった。

「担任の先生から、みなさんの前でお話してほしいというおたよりをいただきました。そのおたよりには「誰にでも手を差し伸べられる優しく、強い心を持つ子に育ってほしい」という先生の願いが書





隣保館カレンダー



日 月 火 水 木 金 土

		1	2 世界自然遺産啓発デー	3 経営・職業相談 10:00～ 人権相談（掛が丘町 公民館）13:00～	4 幸せの日 トランスジェンダー の日	
5	6	7 経営・職業相談 10:00～	8	9 手芸サークル 13:30～ 人権相談（吉川支所） 13:00～	10 経営・職業相談 10:00～	11 茶道教室 9:00～
12	13 エアロビクス教室 14:30～	14 経営・職業相談 10:00～	15	16 人権相談（二本木支所） 13:00～	17 経営・職業相談 10:00～	18 書を恋しむきらきら 教室 13:00～
19	20	21 経営・職業相談 10:00～	22 アースデー	23 手芸サークル 13:30～	24 経営・職業相談 10:00～	25
26	27 エアロビクス教室 14:30～	28	29 昭和の日 国際労働者の日	30 		

令和8年度総合隣保館主催講座 講座生募集！

隣保館では、以下の講座を開設しています。参加希望の方は、お電話でお問い合わせください。
（☎0794-82-8388まで）

◆手芸サークル

第2・第4木曜日13:30～

◆茶道教室

教室生の希望曜日・時間に
応じて開催

◆書を恋しむきらきら教室

第3土曜日13:00～

◆エアロビクス教室

第2・第4月曜日14:30～



自主活動サークル メンバー募集

◆自由が丘空手同好会

（水）（土）19:30～21:30

◆RASH(ヒップホップダンス)

子ども（木）19:00～22:00

シニア（50歳以上）（木）13:10～14:00

◆大西道場(空手)

（月）19:00～22:00

隣保館で実施中！



*お問い合わせ 82-8388（三木市立総合隣保館）まで

人権啓発DVDをご活用ください

今年度新たにライブラリーに入庫した人権啓発DVDです。
隣保館で貸し出しています。

＊いじめ～それぞれの想い それぞれの言い分（23分）

対象：中学生以上～一般（分野：いじめ問題）
（内容）いじめの被害者・加害者・傍観者それぞれの立場から相手の事情を理解することの大切さを描いています。

＊窓の景色を知ったとき（30分）

対象：一般（分野：障がい・外国人・子ども）
（内容）障がいのある人、外国人、子どもや高齢者等、多くの人にとっての「あたりまえ」に不便を感じている人がいることやお互いに支え合うことの大切さを描いています。

＊シリーズ映像で見る人権の歴史第8巻 人と皮革（かわ）の歴史（19分）

対象：小・高学年以上（分野：部落差別）
（内容）皮革製品の製造過程を取材した記録映像を通して部落差別の愚かさや「いのち」の大切さを訴える教材です。

＊母のさがしもの～認知症とともに生きる～（32分）

対象：一般（分野：認知症・高齢者）
（内容）認知症の人を食むすべての人が相互に尊重し合い「ともに生きる」社会の実現をめざして制作されました。

＊第1巻 企業に求められるカスタマーハラスメント対策（36分）

対象：企業・職場内（分野：カスタマーハラスメント）
（内容）カスタムの定義、判断のポイント、現場の初級対応、予防対策、不適切なクレーム。組織としての対応などについて描いています。

人権啓発紙「隣保館だより」4月号 令和8年4月1日発行
三木市市民生活部人権推進課 編集
〒673-0501 三木市志染町吉田823
三木市立総合隣保館

TEL0794-82-8388 FAX 0794-82-8658
E-mail:jinken@city.miki.lg.jp